

うえだ 環境市民会議 News

第22号
ニュース

うえだ環境市民会議の活動には、誰でも、どのプロジェクトチームにも参加できます。参加ご希望の方は、生活環境課までご連絡ください。豊かな環境を未来に残すために、一緒に活動しましょう。

この情報誌は自治センター、公民館、図書館、情報ライブラリー、市生活環境課の窓口で配布しております。

発行:うえだ環境市民会議

〒386-8601 上田市大手一丁目11-16

上田市生活環境課内

電話:0268-23-5120

FAX:0268-25-4100

E-mail seikan@city.ueda.nagano.jp

大町エコツアー

7月25日に「大町エコツアー」が開催されました。大町地方には大雨警報が出されていましたが、幸いにも一滴の雨も降らず、NPO 地域づくり工房の傘木さんの案内でミニ水力発電、合鴨農法、地域通貨アルペン、菜の花エコプロジェクトをスムーズに見学することができました。

参加者から寄せられたたくさんの感想文をご紹介します。



大成功だった大町エコツアー

柴崎茂利 (うえだ環境市民会議議長)

参加者が27名と大勢の方の参加があり、主催者として、大変にうれしい事でした。環境保護活動や環境保全活動は一人でも多くの人の参加により、効果は指数関数的に大きくなる事を思うと、今回の企画は成功でした。

心配された天候も、雨にも遭わず、強い日差しも受けず、野外見学には最高の天気恵まれて、これまたメデタシ!メデタシ!でした。

メインディッシュ(?)は「NPO 地域づくり工房」の活動の基本方針の一つである「仕事おこし」にこの団体の独自性を発見しました。彼らは自分達が特定の仕事をするのではなく、大町という自

然環境・地域性を生かしたテーマを探し、それを事業化が可能になるレベルに押し上げる支援活動、それを仕事と位置づけている訳です。このユニークな点を高く評価したいと思います。

さて、我上田市について反省してみると、この様な情熱を持った団体が生まれる事が、または生み育てる行政が必要であることが分かります。すべては「人」ですが、まず旗を振る人が出る事を強く期待します。

いろいろなことが勉強できました

野々村孝子

地の利を生かしたミニ水力発電や、菜の花プロジェクト、地域通貨アルペンはどの取り組みも地

に足を付け、地道でひたむきな姿が伝わってきました。

これまでは企業や自治体先導型で、必ずしも景観や住民のニーズを満足させるものではない状態にあったと思われます。

今回見学させて頂いた地域づくり工房では住民の自発的な取り組みを支え小規模ながらゆっくりと将来を見据え、負の遺産を残すのではなく景観も保ち、さらに地球環境を良くしていこうという姿勢を強く感じました。

それにしても地域づくり工房の傘木代表の博識と地域を愛する熱意、それを取り巻く人材のネットワークの素晴らしさを感じました。私もネットワークを大切に、地域を心底愛することから始めていく必要性を感じました。

百聞は一見に如かず

安井啓子

一度実際に現場を見てみたいという念願がかない、大町のミニ水力発電や菜の花エコプロジェクト等いくつかを見学した。やはり百聞は一見に如かずだ。

ミニ水力発電は、これまでの大型・ハイテクノロジーではなく、身の丈にあった小型・ローテクノロジー、ローコストの工夫が見られ、親近感をもった。

また、菜の花エコプロジェクトは、土地の気候、風土を考慮し、地域の自然資源と人材を有効に活かしながら、人間も自然とともに豊かになることを目指して、次々と取り組みを展開されている。これが、多くの市民にひろがれば、CO₂の削減、ひいては地球温暖化防止の一助ともなる。市民が参加しやすいシステムにすることでより一層の成果が得られると思った。

ミニ水力発電、菜の花エコプロジェクトともに実際の活用にはまだまだ課題もあるが、何はともあれ実践に挑み、様々に工夫と改良を重ねて進めてこられたことに感服した。翻って上田市はどうか？何が不足しているのか？よ〜く考えてみる必要があるとも思った一日でした。

CO₂削減の大変さ！

松林進

地球温暖化の大きな一因となっているCO₂をミニ水力発電によって削減している大町エコツアーに参加させていただき、色々と参考になりました。

既存の化石エネルギーの使用を減らすか、または全く使わないで、私たちの今の生活を持続させるにはどうしたらよいか。

それには循環型エネルギー、つまりCO₂を排出しない水力、太陽光、バイオマス、波力、風力ですが、なかなか進まないなかで大町のNPO地域づくり工房は頑張っていることに頭が下がります。

地域に合った取り組み

前田美枝子

大町は観光で成り立っているところなので、ミニ水力発電でも見て楽しい水車を回し、環境に配慮した事業として行っていることに感心しました。

また、NPO地域づくり工房の専従スタッフが若い人たちで運営されていることも強みですね。ミニ水力発電所を作るときの河川使用の許可書も手探りで、結局ダムを作るのと同じ分厚い申請書が必要になってしまったお話にやる気があれば出来るんだなと思いました。



ミニ発電所を見て

村山顕

三箇所のミニ発電所を見学して驚いたこと。

①三箇所とも蓄電池を備えていて安定供給に心が

けていること。

②観光用を兼ねて、昔風の水車を回しているところもあること。将来木崎湖の出口の水門のところにも発電所を作りたいそうだが、できたらそこもいわゆる観光用水車にしたいそう。

③どこも私が予想していたより、水力から電力へのエネルギー交換率が30%台で、意外と少ないものだということが分かった。

上記以外の感想など。

①上田駅前広場の水車は、発電もしているが、以前は止まっていることが多かった。現在発電した電気はどんな利用がされているのか、今度駅に行ったときに説明の看板をよく読んでみようと思った。

②水力発電の利用では、畑山の水力発電所の再興計画の夢が実現するといいなあと思った。

③上田でも水の豊かなところでは、いろいろ工夫して水力を利用できそう。

④水力にしても、太陽光利用にしても、蓄電能力にしても、もっともっとエネルギー交換率のいい技術や発明が、どんどん行われて、しかもコストが安く設置されるようになるといいなあと思う。



■消費電力表示パネルと蓄電設備

一番関心のあったミニ水力発電

藤倉佑子

上田でも実現出来そう・・・と思いました。その理由として、先ず規模が巨大でなく、経費なども実現可能な範囲だった事です。また上田には幾つもの用水路が街の中を通っていたり、現に駅前

には水車があり、うわさでは街路灯の発電をしているとか？

身近な自然のエネルギーを分けてもらうという気持ちで、自然に優しいエネルギーの活用はこれからの課題ですね。

でもエネルギーを生み出すことも大切ですが、そのエネルギーをどう使うかが大事なことと思います。その点で、戦争はもっとも大きな環境破壊とエネルギーの無駄使いだと思います。



■これも水車

自分の目で見ることの大切さ

山崎敦之

「大町のエコツアー」に参加して、まず思ったことは、やはり百聞は一見にしかずだということです。自分の目で自分の感性で直接見るとということが如何に大切かということを実感しました。特に私はクルクルプロジェクト・ミニ水力発電に興味を持ちました。

身近にある農業用水路を利用したミニ水力発電は、上田でも検討の余地有りとする反面、水路使用申請に厚さ2.5cmほどの申請書が必要と聞いて驚くやら。NPO 地域づくり工房の傘木様や皆様の熱意・心意気に感動しました。

私の住んでいる上塩尻・新幹線トンネル近くのもったいない水は、沢水です。もしかしたら水利権の問題がないからミニ水力発電機が設置できるのではないかと。まずは小さなおもちゃのようなミニ水車でも作ってみようかな・・・。こどもたちが楽しめるように。

上田市も同じ状況ですが、大町市の中心商店街の閑散とした状況を肌で感じました。その様な状況の中、地域通貨アルペンを介して、商店街の皆様が活性化に努めている姿に感銘を受けました。私は地域通貨アルペンをとある食堂で使わせていただきましたが、その食堂のおばちゃんに本当に親切にいただき、なぜか亡くなった母親を思い出し、目頭が熱くなりました。また大町に行きたいなあ……。私はこのエコツアーに参加し、まず私のできることから、私の足元からだどつくづく思った次第であります。



ちょっと気がかりな合鴨農法

竹内秀夫

面積約3反(約3,000㎡)の電気柵で囲まれたところが合鴨農法の田んぼだ。アトピーの息子がご飯を食べられるようにと、農薬・化学肥料漬けだった稲作から無農薬・有機肥料の稲作へと180度転換したことがきっかけだった。稲作で草取りの労働は大変だが、それを合鴨にやって貰い、その糞が肥料にもなるというのが「合鴨農法」である。

50～60羽の合鴨たちは約3反の草取りを毎日せっせとこなし、「菜の花プロジェクト」協力者の旅館やホテルから出る天ぷらカスも餌として与えられている。田んぼを囲む電気柵は合鴨が逃げないようにではなく、タヌキやキツネに襲われないようにしたものだ。

稲が立派に育つと合鴨たちの仕事は終わるが、したたかな人間によって合鴨たちは食材という次のステージに送り込まれ、短過ぎる一生を終える。そして、一流シェフの手により食材としての付加価値が付けられる。

すべてに無駄がなく、一石三鳥とも四鳥とも思われる「合鴨農法」だが、合鴨を物としか見ていない点が私としては気がかりだ。

上田駅前広場の清掃作業

8月12日に「上田駅前広場の清掃作業」を実施しました。これは「花と緑のうるおいのある街づくり」プロジェクトチームが計画した活動を「環境体験学習」と位置づけ、全員で取り組んでいるもので、6月10日の1回目に次いで2回目になります。

当日はうえだ環境市民会議のメンバーと一般市民を合わせて21名に参加して頂き、ありがとうございました。今回は新たに4人の若者の参加もあり、活動が着実に広がっていることを実感でき、嬉しく思いました。

清掃作業は参加者全員で約1時間、お城口と温泉口の駅前広場のゴミ拾いや草取りをしました。駅前広場の清掃には色んな団体が参加しており、その成果として年々きれいになってきているという声を耳にするようになりましたが、たばこの吸殻の多さを見るとどうもモラルの向上にはなかなかつながらず、ただ、タイミングとしてはお盆の帰省客を迎える日と重なり、上田の玄関がきれいに見えたのではと思います。

なお、次回は10月14日(土)9:00からですので、また多くの方々にご参加頂きたいお願い致します。

